

多様な性 認め合おう LGBT



さまざまな
「性のあり方」を
かんがへる本

中塚幹也・岡山大学
大学院教授が監修した
『個性』ってなん
だろう？ LGBT
の本」（あかね書
房、税込み4400円）
の表紙



性別に
とられず
選びやすい
制服

ブレザーとネクタイ
は男女兼用、ズボン
とスカートの柄は同
じで性別に関係なく
ボトムを選びやすく
した菅公学生服の制
服（同社提供）

人にはそれぞれ個性があり、その個性には「性」についてのことも含まれます。LGBTは、レズビアン（Lesbian、女性を好きになる女性）、ゲイ（Gay、男性を好きになる男性）、バイセクシュアル（Bisexual、男性も女性も好きになる人）、トランスジェンダー（Transgender、心の性と体の性が一致しない人）の頭文字を取った言葉です。クエスチョニング（Questioning、性のあり方が決まっていない人）なども含め、LGBTQという言葉が使われることも多くなりました。「セクシュアルマイノリティ（性的少数者）」と言われ、自分がそうだと言いだしにくい人が多いのが現状ですが、岡山県内でも性別にとらわれることなく制服を選べる学校が増えるなど、多様な「性のあり方」を認め合う動きが少しずつ広がっています。

岡山大ジェンダークリニックの医師で、子どもがLGBTについて理解するための本を監修した中塚幹也・同大学院保健学研究科教授（生殖医学）、当事者の交流などを進めるプラウド岡山の鈴木富美子代表に、小中学生の皆さんに知ってほしいことについて聞きました。

（黒崎平雄）＝2面につづく

LGBT 多様な性 認め合うには

おかやまだいがいんほけんがくけんさうか
岡山大学大学院保健学研究科

なかつかみきやきようじ
中塚幹也教授に聞く



皆さんにLGBTについて考えてもらうための本のタイトルを「個・性」ってなんだろう？」としたのは、性のあり方が人それぞれであることを知ってほしいからです。

正しく理解を

人の性は見た目だけでは分かりません。「体の性」やそれにより戸籍などで割り当てられた性・「心の性」が一致しないこともあり。そういう人にとって体の性に合わせて「男らしさ」や「女らしさ」を求められるのは、とても苦しいことです。また恋愛感情を持つ相手と異性とは限りません。心の性と同じ性を好きになる人、どちらも好きになる人、どちらが好きか分からない人もいます。

個・「性」を認め合い、みんなが楽しく過ごすためにまず大切なのは人をからかったり、いじめたりしないことです。性のあり方が多様であることを正しく理解すれば、そんなことはできないはず。学校などの男女分けについて、配慮が必要なこともあります。制服、トイレ、名前の呼ばれ方などが「自分に合わない」と感じる人が

その人の立場になって考える



中塚教授が監修した「個・性」ってなんだろう？ LGBTの本」の、学校での男女分けに関する悩みについて考えるページ

ます。どうするのがいいか、その人の立場になって考えることが大切です。

自分の心と相談

性についての違和感や同性を好きになることを人に打ち明けることを「カミングアウト」といいます。しなければいけないわけではないし、「誰に」「いつ」するか人もそれぞれです。カミングアウトを受けたい人は、話をよく聞きましょう。勝手に周りの人に話してしまうのは「アウティング」とい

って、絶対してはいけないことです。大人に相談したくなると思いますが、そのときは話していいか必ず本人に聞いてからにしましょう。

性についての悩みから、将来に不安を感じる人もいますが、社会は変わってきています。誰もが働きやすい環境を整えようとしている企業があります。また現在の日本では同性カップルは結婚できませんが、自治体がパートナーとして公式に認める制度が広がっています。岡山県では総社、岡山、備前市で導入され、他にも準備中の自治体が増えています。制度の活用が進み、法的に権利を守る仕組みづくりにつながっていくことが期待されます。

おかやま
当事者グループ・プラウド岡山
鈴木富美子代表に聞く



ありのままの自分で

自分の性別に違和感があったり、好きになった人が同性であったりして「もやもや」を感じても、それは決して変なことではないとまず知ってほしいと思います。

それぞれの悩み

私の場合、小学校高学年で女の子に引かれて、同性が好きと気付きました。大人になってパートナーができるなどして、自分はレスビアンだと認識するようになりましたが、そうだと人に言うことは40代後半になるまでありませんでした。高校教師、生活情報紙記者などを経てフリーライターとして働いていて、その必要を感じなかったからです。

信頼できる人に

カミングアウトした後は、当事者の支援活動をしているトランスジェンダーの若者との出会いがきっかけでした。自分が若い頃に抱えていた「しんどさ」を、今の若者も感じている状況を知ると、何となく受け入れられると思い、当事者グループのプラウド岡山を立ち上げました。結果的にカミングアウトすることになったのです。

カミングアウトは無理にしないで、する時には「自分が信頼できる人に少しづつ」というのがいいと思います。今は話せなくても、本心に困ったときに話せるような相手を、大人でも友達でもいいので見つけてほしいです。

話を聞いた人は、話してくれた人のことをありのままに受け止めてください。特に親御さんには「わが子が自分らしく生きられるよう、困り事、悩み事があれば寄り添ってあげて」と言いたいのです。

「性の多様性」について正しい理解が広がることを願っています。セクシュアルマイノリティ（性的少数者）を差別せず、それぞれの悩みに寄り添うことは、あらゆるマイノリティを大切にする社会につながるはずです。

プラウド岡山のホームページのイラスト



多様なセクシュアリティの共生をめざす
プラウド岡山

相談窓口

性別に関することなどの悩みについて相談できる主な窓口を紹介します。

■よりそいホットライン（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）☎0120-279-338 24時間対応、無料。電話をかけて、

音声ガイダンスが流れたら「4」を押すと、性別や同性愛などに関する相談窓口につながります

■子どもの人権110番（法務省）☎0120-007-110 平日午前8時半～午後5時15分、土・日・祝日・年末年始は休み、無料